

2020年度「自立援助ホーム支援助成」助成事業実施報告書

団体名自立援助ホームきょうわ

代表者・役職名 氏名西尾友秀 指導員

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

施設環境整備

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

法人本部は、乳児院と児童養護施設が隣接しており、0歳～18歳まで継続した養育をすることが可能だったが、18歳を過ぎた子を支援する環境・人員体制が整っていなかった。0歳～20歳まで支援することを目標に、8年前に法人から一駅離れた場所のアパートを一棟借りて自立援助ホームを設立した。現在は平成29年度に同じ区に移転をして運営をしている。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

庭が広いので、全体の環境整備をするときは、大家さんが剪定業者を呼んで整備して下さる時もあります。家の周りがある木が塀の役割をしていますが、腰の位置ぐらいいまでしかない為、草が伸びていると手入れができていない状況が丸見えで、施設としても見栄えが悪い時があります。また、木・草に水たまりが多くでき、夏には蚊が大量発生することもあり、利用者・職員も困っています。勤務が一人体制になることも多く、環境整備まで手が回らないことが今までもあり、効率的に環境整備ができる用具・用具をしまう倉庫が欲しいと思いました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

庭の整備で月々2～4回使用する用具の購入

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

月2回の環境整備は継続して行うことができます。草刈り機・剪定ばさみ等を購入したことで環境整備にかかる時間を大幅にカットすることができ、職員の精神的・肉体的疲労も減り、子どもたちと関わる時間・職員間での話し合いの時間も増えました。昨年度の実績を元に、剪定や草刈りを外注する予算として30万円立てていましたが、草刈りも職員が行えるようになったことで、年3回外注する予定が2回で済みました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

夏季の雑草の伸びが早い上に、職員も夏休みや行事等で一人体制になることが多く、雑草の機械刈りをシルバー人材センターに1度依頼した予算が2万円弱しました。事業費カットの為に、来年度は草刈りをする日程を勤務に組み込むことによって、計画的に草刈りを行い機械刈りの依頼をなしにしていきたいと思っています。

7. 参考資料

支援対象事業で作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

